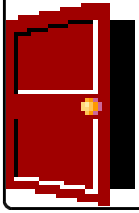


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

No. 7

桑村小学校令和5年4月27日 文責 渡邊

読書通信NO. 6では、「詩」の読書推せん文の5年生の作品を紹介しました。今回は、いよいよ最終回！6年生の作品を紹介します。

第6学年 長田 琴美さん

紹介したい詩 作者 金子みすゞ

「わたしと小鳥とすずと」

わたしがりょう手をひろげても お空はちっともとべないが

とべる小鳥はわたしのよう 地めんをはやく走れない

わたしが体をゆすっても きれいな音はでないけれど

あのなるすずはわたしのよう たくさんのうたは知らないよ

すずと、小鳥と、それから わたし、みんなちがって、みんないい

◆推せん文

すすめたい相手(自分のことを苦手に思っている人へ)

人はだれもが苦手であきらめてしまいたいことや、とくいなことをどんどんやりたいということをもっています。性格でも短所でいやだと思ふこと、逆に長所がありそれで人に好かれることなどいろいろありますね。みんなそれぞれステキなところがあるのに、それに気づいていない人にこの詩をよんでもらいたいです。そして、あらためて自分を思い直してもらいたいです。

※琴美さんが推せん文で述べているように、人には良いところが必ずあると校長先生も思います。金子みすゞの「わたしと小鳥とすずと」にあるように、みんな違うから素敵なのですよね。「豊かな感性」を育むことで、自分や友達のよさをたくさん発見できる桑っ子であってほしいと願います。

第6学年 長田 和樹さん

紹介したい詩 作者 黒田三郎

「紙風船」

落ちてきたら 今度はもっと高く もっともっと高く

何度でも打ちあげよう

美しい願いごとのように

◆推せん文

すすめたい相手(願いごとがある人へ)

ぼくが初めてこの詩を読んだときは、あまりその意味がわかりませんでした。けれど、何回も読んでみると、風船が落ちてきても何度も何度もそれを打ちあげようとしていることがわかりました。そして、ぼくは打ちあげているものを願いごととして考えました。願いごとをかなえるためには、ちょうせんすることが必要です。それがたとえ失敗しても、何度でもちょうせんすることが大切だと思ふようになりました。みなさんの願いごとは何ですか？すぐかなうものですか？

※とても素敵な推せん文です。和樹さんの豊かな感性を感じることができました。夢に向かって挑戦することの大切さを再確認させられました。ありがとう！